

谷ヨリ島田マデ一里ノ間一面ニ川トナル、其時ハ往還止テ、金谷島田ノ兩驛ニ逗留スル旅人多シ、常ニハ川越ト云者アリテ、交易ノ人ヲ扶助シ、渡シテ價ヲトル、

〔東海道名所圖會^四〕大井河 或は大堰河、又は大猪河とも書す、渡口金谷の驛の北にあり、水源は信州の山谷より流落る急流にて、常に薄濁なり、

〔日本書紀^{十一}仁德〕六十二年五月遠江國司表上言有大樹自大井河流之停于河曲其大十圍、

〔日本靈異記^中〕藥師佛木像流水埋沙示靈表緣第卅九

駿河國與遠江國之堺有河名曰大井河其河上有鶴田里是遠江國榛原郡部内也○下

〔十六夜日記〕廿五日、きく河をいで、けふは大井河といふ河をわたる、水いとあせて、聞しにはたがひてわづらひなし、河原いくりとかやいとはるかなり、水のいでたらんおもかげおしづからる、

思ひ出る都のこととはおほゐ河いくせの石の數も及ばじ

〔丙辰紀行〕大井川

大堰河は駿河と遠江との境なり、明日香川ならねど、霖雨ふれば淵瀬かはる事たびくなれば、東の山の岸を流れて、島田の驛、河原の中にある事もあり、西の方に流れて、金谷の山にそぶ事もあり、一すぢの大河となりて、大木沙石を流す事もあり、あまたの枝流となりて、一里ばかりが間にわかる、事もあり、さればいにしへより徒杠輿梁もなり難き故に、往來の人馬川の瀬を知らざれば、金谷に待つもあり、島田にとまるもあり、渡りかゝりて溺る、者もあり、辛ふじてむかひの岸に至るもあり、島田の民をのが家は漂ひ流るれども、旅客の囊をむさぼる故に、洪水をよろこぶ、賣炭翁が單衣にして、年の寒きを待つが如し、河水の家を流し田をそこなふ故に、防鴨河使、防葛野河使を置かれし昔の事も、唯今思ひ出ざらんや、